
赤い道を求めて。

赤莓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤い道を求めて。

【Nコード】

N1808I

【作者名】

赤莓

【あらすじ】

殺すことを楽しみとした、小さな女の子の物語――
最後の方に、グロ表現が入ります。

初めて。

あるところに、小さな女の子がいました。

女の子は少し、ほんの少しだけ——・・・。
色々とおかしな子でした。

周りの人は、そんな女の子の近くに寄れませんでした。
なぜかって？

女の子にほとんど感情がなかったからです。

人間に、感情のない人なんていないでしょう？

そんな子の近くに、居たい人なんていないでしょう？

そのため、女の子はいつも一人ぼっちでした。

そんな女の子には、唯一大切にしているものがありました。

白い兎のぬいぐるみでした。

ある日、女の子は初めて何かを思いつきます。

「——は必要あるのか」と。

女の子は最初に綺麗な蝶を殺しました。

赤い血は、女の子に付きませんでした。

女の子は次に大きな犬を殺しました。

赤い血が沢山女の子にかかりました。

それでも女の子は無表情でした。そう、怖いくらいに。

女の子はその格好のままお母さんのいるお家に帰りました。

血に染まった女の子を見て、お母さんはとうとう泣き出してしまい

ました。

「どうして・・・？」

女の子はそんなお母さんを無言で見つめていました。

泣き止まないお母さんを見て、女の子は少し考えました。
そして女の子は、素晴らしい事を思いつきました。

「きゃあああ！！！」

家に、お母さんの絶叫が響き渡りました。

まだ小さい女の子は、お母さんを殺したのです。

お母さんの長い髪が真っ赤に染まりました。

その時、女の子が少し笑ったのです。

感情のほとんどない女の子が！

女の子は小さな声で言いました。

『楽
シイネ』
と。

出会い。

女の子は、12歳になりました。
あれから、もう六年です。

以前は大勢の人でにぎわっていたこの町も、

今は女の子一人だけ。

彼女の後ろには赤い道が敷いてあつて。

彼女の足跡は全て赤い血で作られていて。

顔には少し笑顔が含まれていて。

そして・・・

彼女の腕には、赤く染まってきている兎のぬいぐるみ。

彼女は呟きました。

『楽シカッタネ』

女の子は隣町に行くことにしました。
新たに、赤い道を作るために。

「・・・・・・・・」

ところが、隣町にはもう赤い道が敷いてありました。
生き物は何一つ居ませんでした。

彼女はとりあえずこの町を回ってみることにしました。

がさっ！

「・・・」

女の子はゆっくり音のした方を向きました。

そこには、同じ年ぐらいの少年が居ました。

そして彼は彼女を自分の武器で殺そうとしました。

女の子は、ゆっくり、でも確実にそれをかわしました。

あたりが沈黙で満ちました。

最初に口を開いたのは少年の方でした。

「誰」

女の子も少しだけ言いました。

「あなたこそ」

あたりがまた静かになりました。

「どうしているの」

「殺しに来たの」

「誰を」

「全員」

短い言葉ばかりのやりとり。

彼は少し考えてから、少し長めの文を言いました。

『全部殺シタヨ』

彼は、笑いました。

彼女も、長い文を言いました。

「・・・あなた、私と一緒に行かない？」

彼も言いました。

「・・・都会に行こう」

滅ぼそう、全てを。（前書き）

それから、2人の奇妙な旅が始まりました。

食料などは殺した人の持つていたもので賄えました。

「次は」

「右」

「右？」

「そう、右」

「分かった」

相変わらず口数が少ない2人。

それでも、息はぴったりでした。

1つ1つ、町を、村を、壊していったのです。

2人は、毎日殺しました。

毎日毎日、どんどん死人が多くなっていきます。

殺しすぎてしまいました。

でもそんなこと、当の本人達は全く気にしません。

2人は、殺すことをやめませんでした。

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

2人からは笑顔が絶えません。

次第に、2人は一つの市を滅ぼしました。
さらに2人は、州を滅ぼしました。

そして2人は

10後……。

ついにやったのです。

2人は

もう、

2人しか。

そう、

この国には、

少年と少女、

2人以外……

誰もいなくなりました。

滅ぼそう、全てを。

それから、2人の奇妙な旅が始まりました。

食料などは殺した人の持つていたもので賄えました。

「次は」

「右」

「右？」

「そう、右」

「分かった」

相変わらず口数が少ない2人。

それでも、息はぴったりでした。

1つ1つ、町を、村を、壊していったのです。

2人は、毎日殺しました。

毎日毎日、どんどん死人が多くなっていきます。

殺しすぎてしまいました。

でもそんなこと、当の本人達は全く気にしません。

2人は、殺すことをやめませんでした。

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

「楽シイネ楽シイネ」

2人からは笑顔が絶えません。

次第に、2人は一つの市を滅ぼしました。
さらに2人は、州を滅ぼしました。

そして2人は

10後……。

ついにやったのです。

2人は

もう、

2人しか。

そう、

この国には、

少年と少女、

2人以外……

誰もいなくなりました。

？ぐ、赤いモノ

「居ない・・・」

「居ない・・・」

ああどうしましょう。

この場所にだけ、赤い道が無いのです。

二つの道が繋がらないのです。

どうしましょう。

ここだけ、完成しないなんてあつてはいけないのです。
完成させるのです。

彼女は

「バイバイ」

とだけ言いました。

「え？」

彼が振り返った時には遅すぎました。

彼は倒れました。

彼女は彼の首を切りました。吹き出た血。

白い道が少しずつ染まって行きます。

次に、手足を切り落としました。

ほんの少し、残っていた血が滴り落ちました。

「ふふ・・・」

彼女は、彼のお腹を切り裂いて内臓を取り出しました。
まだ生暖かいそれを、彼女は並べました。

「・・・」

兎はもう、真っ赤でした。

足りないのです。

少しだけ、白いのです。
もう何もありません。

彼女は考えました。

そして気付いたのです。
とても簡単な事でした。

彼女は・・・

自分を殺しました。

そしてついに、出来上がりました。

真っ赤な真っ赤な・・・

赤い道が・・・。

新たな悲鳴

完成した、 赤い道。

一つの、朽ち果ててしまった国。

この国に、生きているモノなどはもう無くて、

ただ、国がありました。

何故かそこに近付けるモノも無くて

そのまま・・・・・・・・

少しだけ変だった少女は

少しずつ朽ち果てていき
ました。

・・・体が。

「・・・殺スノ・・・」

楽シイネ——・・・」

隣国が、悲鳴をあげました。

e n d

微妙な所で終わってすいませんでした。

ところでこの話・・・

かなり最初考えていた話と違うんですが・・・

本当は彼女の一人の国にするつもりだったんですが・・・

本当にすいませんでした。

結局グロ表現。あれ殆ど無くしました。

一応もとは手作り絵本なんで・・・。（あ、勿論オリジナル小説ですよ？）

出来れば悪いところを教えてもらえると嬉しいです♪
ではw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1808i/>

赤い道を求めて。

2010年10月28日03時11分発行